Close-up Interview（2月号　表紙の顔）

石田 万音 ISHIDA MANON

「プロとして常に最高のパフォーマンスを見せたい」

▲ロケ撮は1月25日、神戸市内の某所にて。公式戦のアプローチ上で見せる厳しい表情とは違う、まだあどけない少女の素顔が覗く（カメラ：越智竜也）

デビューイヤーの昨年は15戦して優勝2回、準優勝2回、予選落ちはわずかに1回という好成績で、ポイント・アベレージ・獲得賞金のランキング3部門でいずれも3位に食い込んだ弱冠18歳の石田万音プロ。今年3月の高校卒業を前に新たな所属先も決まり、2年目のシーズンにさらなる飛躍を誓っている――。

ナショナルチームとの両立は断念

――プロ1年目から素晴らしい活躍でした。

「毎試合、順位にこだわって投げていました。中学生のころからずっと戦ってきた中島（瑞葵）プロが高校時代に急成長して、1年目に新人戦と六甲クイーンズを連勝したのを見ていたので、私もという気持ちでした。まずはタイトルを取れてうれしかったですし、とくに新人戦はずっと1年目のプロが優勝していたので、必ず一発で取りたいと思っていました」

――ちなみに、高校在学中にプロ入りを決めた理由は？　卒業してからという選択肢もあったと思うのですが。

「タイミング的なものが大きいですね。去年はナショナルチームの選考会とプロテストがほぼ同時期にあると分かって、周りの人にも『プロになるなら早いほうがいい』と言われていたので。そのあたりは師匠の中谷（優子）プロ、平岡（勇人）プロと相談しながらでしたが、最終的には自分で決めました」

――JBCの会員規程が改定されて、プロ活動との両立も可能になりましたが。

「当初は両立も考えていましたが、大会の日程が重なったときに悩むだろうし、周りにも迷惑をかけると思って、プロ一本でいくことにしました」

――昨シーズン、いちばんうれしかった試合は？

「自分が“イケる！”と思って、最高のパフォーマンスで優勝できた山梨レディースもうれしかったけど、それ以上に、幼少のころから後ろでボウリングを見させてもらって、私のことを知ってくださっている（姫路）麗プロとJPBA☆SSSカップの優勝決定戦で対戦できたことは、本当にうれしかったです」

――逆にいちばん悔しかった試合は？

「それもSSSカップです。同じ準優勝でも、ちゃおちゃおボウリング大会のときは優勝した中島プロに最初から気持ちで負けていたと思うし、そこから出直して、SSSカップは勝てるチャンスもあったので」

▲JPBA☆SSSカップでは、プロ1年目にして早くも“女王”姫路麗との優勝決定戦が実現。うれしさと同時に、負けて悔しさが募った一戦だったという（23年11月19日、東京ポートボウル）

「プロは常に見られている」

――プロになって何か変わったことはありますか？

「アマチュアのときはランキングや賞金がないし、試合の成績だけが強さの証明になるので、ただただ結果だけを追い求めていました。周囲の目も気にすることなく行動していたけれど、プロはいつどこで何を見られているか分からない（苦笑）。なので、常にプロフェッショナルという気持ちで行動しなければいけないと思うようになりました」

――「常に見られている」という意識は大事ですね。

「そして、プロとしての戦い方をたくさん見ていただく。試合で活躍してテレビに映れば映るほど、いつも応援してくれるファンの方やスポンサーさんも喜んでくださると思うので」

――「石田万音のボウリング」のアピールポイントは？

「バックスイングが高いダイナミックなフォーム、どちらかといえば海外の選手に近いような感じですね。男子並みに曲がるボールを投げられるのも特長だと思います。逆に課題はコントロール。緊張するとどうなるかを分かった上で試合に挑んでいます。あとはレーン変化への対処が遅いので、それをもっと早くしたいです」

▲小柄ながらパワフルなボウリングが身上。ダイナミックなフォームから投じられる高速回転のボールは男子プロ並みだ（1月25日、アルゴボウル）

――大会中はだれと行動していますか？

「最初のころは中谷プロと平岡プロでしたが、最近は近藤菜帆プロ、原野萌花プロと3人で行動するときもあります。普段は菜帆ちゃんと一緒のことが多いですね。彼女のほうが2歳年上だけど、ナショナルでも一緒だったし、お互いに素の状態でボウリングの話もプライベートの話もできる相手なので」

▲インタビューは1月17日、io.LEAGUEのゲーム終了後に行った。この日の石田は途中出場でストライクを連発し、ゼクス大阪神戸の逆転勝利（対チーム湘南戦）に貢献（池袋ロサボウル）

ジュニアのボウラーに夢と希望を

――2024年になりました。1月1日付で株式会社アルゴセブンの所属になったそうですね。

「生まれたときから私のことを知っていて、ずっとお世話になっているアルゴボウルの竹内（義明）支配人が声をかけてくださいました。ちょくちょく練習もさせてもらっていたし、以前から応援してくださっているセンターのお客さんも多いので、みなさんのためにもボウリングを頑張りたいと思っています」

――業務内容は？

「プロとしてリーグやチャレンジで投げることが主で、センターでの勤務はありません」

――io.LEAGUE「ゼクス大阪神戸」のメンバーにも選ばれました。

「チーム戦は好きです。関西にも40人近くいる女子プロのなかで、必要とされてメンバーに選んでもらえたのはうれしいし、選ばれたからには頑張りたいと思っています」

――最後に、公式戦での今年の目標を聞かせてください。

「関西の大会で1勝、2勝はしたいですね（笑）。タイトル数にこだわりはないけれど、プロとして常に最高のパフォーマンスを見せたいです。自分の試合を観て、年齢の近いジュニアのボウラーが『プロになりたい』と思ってくれたらうれしい。ジュニアのボウラーに夢と希望を与えられるプロになるというのが一番の目標です」

取材協力：アルゴボウル

石田プロと一緒に投げよう！近日開催のチャレンジマッチ

- ●2月12日　大阪・アルゴボウル
- ●2月23日　三重・久居ボウリングセンター
- ●3月3日　山形・山形ファミリーボウル

いしだ・まのん／2005年4月17日生まれ、兵庫県出身。156㌢、右投げ。23年プロ入り（55期／ライセンス№599）。優勝2回（レディース新人戦、2023山梨レディース）、公認パーフェクト2回。23年度ポイントランキング3位、アベレージ219.54。所属：アルゴセブン／ハイ・スポーツ社